

個別支援の事例

—身体の動き・空間認知が苦手な方への支援—

20代の男性

視力 両眼とも光覚

1 困難なこと・評価

(1) 身体の動き

両手を前に伸ばすと指先まで伸びない。

両手を真横に伸ばすと左右の高さが異なる。

指先をうまく曲げることができない。

(2) 空間認知

背中を上からなでると途中で方向がずれて腰まで到達しない。

腕の長さなど身体各部の長さの違いを見だせない。

きれいにタオルを敷いたり掛けたりできない。

2 支援の実践

(1) 身体の動き

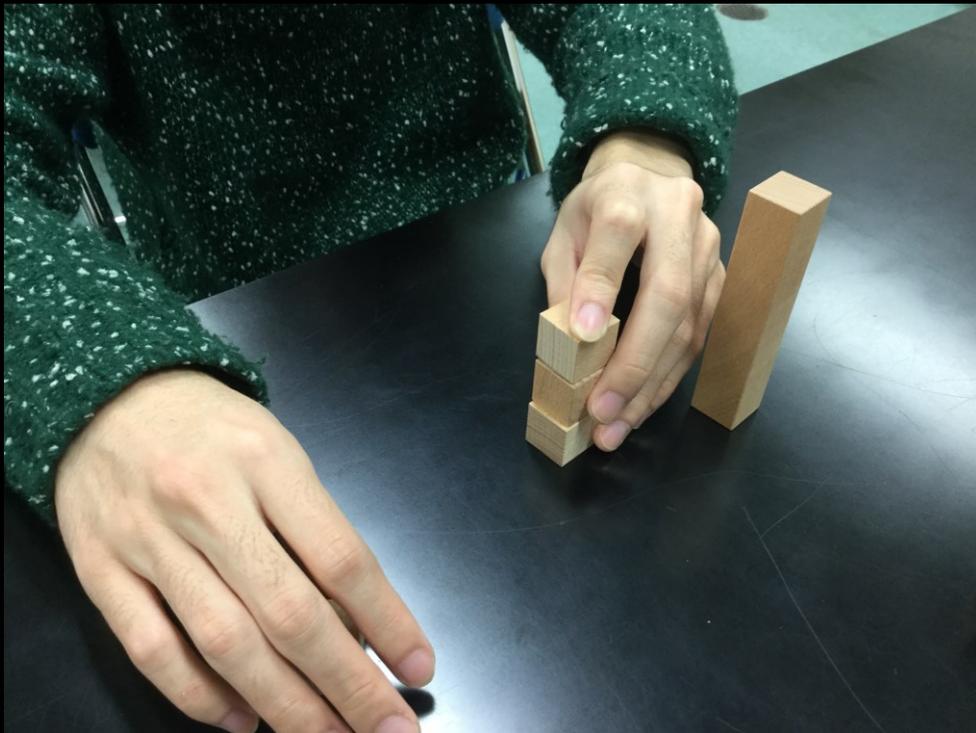
自身で動きやすい姿勢を見いだすことに重点をおいた。
上肢の動きは関節に手を添えて触られた感覚を意識するように努めた。母指で圧迫する動作はシリコンボールを用いた。



(2) 空間認知

長さ、高さ、大きさ、立体は、積み木やプレートを活用して理解できるようにした。

バスタオルや手ぬぐいの面と辺は、長辺と短辺の2辺に玉留めをつけてることでタオルの大きさを確認した。



3 支援の結果

自身の身体が無理のない姿勢で施術ができることを実感することができた。

上肢の動きと母指は、繰り返し時間をかけて練習することで、揉んだり圧迫したりすることができ、力度の調節もできるようになった。

*特に、シリコンボールを活用したことは、垂直圧の感覚に役立った積み木などの教材を使うことで、長さ、高さ、大きさ、立体の概念を知ることができた。

バスタオルと手ぬぐいの2辺に玉留めをつけ、数えながらたぐることで、辺の長さの違いを理解することができ、タオルを敷いたり掛けたりできるようになった。

4 まとめ

本人の希望から1回の支援時間を短めにしたことで集中してできた。

回数は多かったが反復して実践したことが獲得につながった。

実技担当者を中心に少人数で対応したことがよかった。